

平成 30 年度第 2 回横須賀地域小児等在宅医療連絡会議 議事概要

1. 次第等

日 時	平成 31 年 2 月 28 日 (木) 18 時 30 分～20 時 30 分
場 所	ヴェルクよこすか 3 階 第 3 研修室
次 第	1 開会 2 議題 (1) 今後の進め方について (2) 今後の取組みについて ア 横須賀市立養護学校保護者間アンケートについて イ 各関係機関の取組みについて 3 その他 4 閉会

2. 議事概要

(1) 今後の進め方について (事務局説明)

- これまで抽出した課題を事務局側で整理し、それに対する対応案を事前調書で各委員からいただいたうえで、事務局案として一覧化した。
- 本会議では取組内容に関する議論をいただき、具体化できるような議論をお願いしたい。
- 取組内容については、本日の議論を踏まえ、再度の照会を行う予定。

(2) 今後の取組みについて

ア 横須賀市立養護学校保護者間アンケートについて (根岸委員説明)

- 保護者間で取ったアンケートで提出された意見を、重要度・緊急度別に分類した。
- 一番の問題となったのは移動支援であり、これが利用可能な資源不足にも直結しているのではないか。

イ 各関係機関の取組みについて

(ア) 移動支援について

a スクールバスについて

- スクールバス、特に呼吸器への対応をお願いしたい。(根岸委員)
- 別途検討を進めているが、人とお金と時間の調整必要。(品田委員)

b 福祉サービスとしての移動支援の問題

- 利用可能な福祉資源が少ないと感じる一因は移動支援が使えないため通えない、というのもあるはず。(根岸委員)

- 移動支援サービス、看護師雇用の採算が取れないという課題がある。移動支援の報酬単価は実は市町村が決められるが、医療ケア加算等の創設が考えられる。ただし、お金のことなので、どれくらい困っている医療的ケア児がいて、そのためにどんなことがどれくらい必要かというデータや数字を示す必要がある。(八ツ橋委員)

c その他

- 介助員が講習を受けたら医療的ケアを実施できるようになるような制度等の創設はどうか。(宮本委員)

(イ) 連携体制

a 多職種連携のための情報共有

- どういうチームを作っているかわからない。多職種での連携が必要。情報が少ないため、調整役の整理や制度理解等のための勉強会などが想定される。(土田委員)
- 医師会が持っている予算は今のところ成人向け在宅のみ。実施にあたっては、市、医師会で予算の調整のうえ、プログラムについては病院や施設、ケアマネジャーに相当する方や機械関係のメーカー等の協力が必要か。(土田委員)
- 例えば養護学校でケース検討会とかができるといいという話もあるが、そういうのは本当に必要だと思う。(桐ヶ谷委員)
- 成人分野の例だが、多職種連携においてもお互いがお互いにやっていることを知らないのが課題というのはよく挙がる。(竹本委員)
- 高齢者分野と障害分野の違いとして、サービス量が不十分、またはサービス量が見えにくいため、相談支援からサービスにつなげられない実態もある。(森下委員)

b 横断的な調整役（相談窓口、中核機関、コーディネーター）

- 窓口がバラバラで、どこにいけばよいかわからないケースがある。各窓口をうまくつなげてくれる存在が欲しい。例えば、ライフサイクルに合わせて相談できる部局横断的なプロジェクト課のようなものを市の中につくってほしい。(宮本委員)
- 『はぐくみかん』という窓口が一か所に集まっている建物があるのだから、例えばそこの1階で行政職員あるいは相談員がワンストップで受け止めて他に繋いでくれるものがあればありがたい。(山崎委員)
- 『はぐくみかん』の課題として、発達支援の相談は充実しつつあるが、肢体不自由の子の、特にリハビリの問題に関する相談先がない。年齢で途切れ途切れになる問題があり、ライフサイクルを一本通しで見ていく場を作っていければいいのだが。(森下委員)

- 保健も、切れ目ない支援一本ということに対しては弱く、今後の課題。繋ぐ仕組みはいくつかあるが、親御さんがかなりのウエートで注力してやっと成立している。医療はすごく丁寧にネットワークがあるが、医療と福祉のつながりが弱いと感じる。しかし、もし高齢のケアマネのような存在の創出を目指せば、かなりの人とお金の導入が必要になると思う。(佐藤委員)
- とはいえ、やはり違う分野を繋いでいく人たちというのは必要。また、違う分野の方が集まる場というのを作って、話し合いをしながら動ければ、役割の共有化を定期的にやる必要がある。(森下委員)
- ケアマネのような方が密着したコーディネートをしてくれるというのが、一番お子さんたちを支えていく力になるのでは。(早川委員)
- コーディネート役は必要だが、一人の人がその人に一生付き合うより、いろいろな人が地域で当たり前のよう支えあって、みなでできるような形がよい。一人の負担が大きいと倒れてしまう。(桐ヶ谷委員)

(ウ) それぞれの分野の中での情報共有・スキルアップ

- 福祉として、個別の支援ケースを共有する場がない。成功例を共有すれば支援可能な例もたくさんあるのでは。例えばある程度定期的に研修を打って、他の事業所等への興味もしくは関心を広める・底上げするという運動は市全体で考えればできるのでは。(山崎委員)
- 相談支援専門員のスキルアップ。医療的なケアへのお子さんの計画相談がうまく機能すればよい。(山邊委員)
- 障害児通所事業所連絡会の事務局をしているが、実際に受け入れているところからの話など、こんな支援をしているというのを皆で学べる機会を持ちたい。(山邊委員)
- 横須賀訪問看護ステーションでは、たんの吸引などの指導もできるよう準備はしている。指導ナースの資格がある。(桐ヶ谷委員)
- 看護師の研修の場の一つで養護学校を活用できないか。小児の恐怖感の払拭等に役立つか。(井上委員)

(エ) その他

- 市としてらいふゆうを支援したり、あるいは、うわまちに重心施設ができたらうれしい。(井上委員)
- 法人としては重心施設を運営できる資格あり。(宮本委員)
- 災害対策。非常時の電源確保として、簡易自家発電機を日常生活用具の補助メニューに入れることができないか。(八橋委員)